

美唄市 吉田彰氏の経営概要

1 美唄市の概要と農業

美唄市は空知地方の中央部に位置し、石狩川東岸沿いに発達した水田地帯です。その土壌のほとんどが泥炭と呼ばれる寒冷地特有の湿地帯となっています。

耕作面積は9,420haであり、近年では、米の生産調整により転作率が高く、小麦と大豆の輪作が行われています。基幹作物の水稲に小麦・大豆を加えた、大規模土地利用型の経営が多く展開されています。また、アスパラガス、花き、ハスカップ等の様々な農作物の作付けがあります。気候は、石狩湾からの偏西風の影響を受ける豪雪地帯ですが、温暖で、特に農業には恵まれた日本海型の気象条件です。



吉田彰氏



図1 美唄市の位置



図2 美唄市の作付割合
(平成28年農業センサス参考)

2 吉田氏の経営概要

吉田氏が農業を営む峰延町は美唄市の玄関口にあります。JAみねのぶ管内は3,835haの農地を有する田園地域です。水稲ではクリーンで「安心・安全」な米づくりに取り組んでおり、「香りの睦みちハーブ米」の生産等を行っています。近年では大豆の作付面積も増加しており、畑作物生産にも力を入れています。

吉田氏の経営面積は16.88haで、水田と畑作に園芸品目を組み合わせた複合経営です。水稲、小麦、大豆、越冬キャベツを作付して、大豆間作小麦栽培や田畑輪換の実施により、連作障害の軽減を図っています。また、小麦の後作にキャベツを作付けすることで収益の確保につなげています。

表1 吉田氏の作付構成と割合

作物名	作付面積 (ha)	作付比率 (%)
水稲	9.34	55.3
秋小麦	4.18	24.7
大豆	1.80	10.6
キャベツ (麦後)	0.30	1.8
レタス (露地)	0.36	2.1
その他	0.90	5.5
合計	16.88	100

3 小麦の生産状況

吉田氏は、経営面積の2～3割で小麦を栽培しています。輪作を行うにあたり、作付けの品目バランスを重視しており、この割合を維持しています。過去2年間の10a当り収量は、市平均に対して約120～160%であり、高い収量水準を維持しています。また、出荷された小麦は、品質測定値でも全て基準値内でした。

表2 最近3年間の小麦生産状況

年産	吉田氏の小麦生産状況					美唄市 平均収量 (kg/10a)
	小麦 品種名	小麦栽培面積 (ha)	麦作率 (%)	製品収量 (kg/10a)	製品率 (%)	
H27	きたほなみ	3.93	21	822	91	535
H28		3.42	22	504	80	436
H29		4.18	25	626	83	362

※H29年における美唄市の平均収量は、H21年産からH27年産の7中5の平均とした。

表3 品質測定値

容積重 (g/ℓ)	F.N. (sec)	蛋白含量 (%)	灰分含量 (%)
840	439	11.1	1.36

4 小麦栽培技術上の特色

表4 耕種概要など

播種			土質	施肥 (kg/10a)					根雪始	雪腐病防除	
期	量	方法		区分	窒素	リン酸	加里	月日		時期	使用薬剤名
9/7	14.0 kg/10a	ブロード キャスター 大豆間作	泥炭土	基肥	0.0	0.0	0.0		11/21	11/14	ランマン フロアブル
				起生	8.0	0.0	4.0	4/5			
				幼形	8.4	0.0	0.0	5/2			
				止葉	4.2	0.0	0.0	5/14			
				出穂	4.2	0.0	0.0	5/31			

(1) 輪作体系の工夫

輪作体系は、代かき移植水稻→大豆→大豆間作小麦→秋まき小麦→キャベツを基本としています。水稻後の作付けは畑の乾き具合に合わせて品目を選択しています。作付けのバランスを崩さないようにするとともに、そのときの病害虫や雑草の発生状況にも気を配り輪作に取り組んでいます。

田畑輪換にも取り組んでいますが、排水対策を工夫しています。土の練り返しを防ぐた



写真1 ほ場内明きょの様子

め、水稻の収穫後、作業はほ場が乾くまで待ってから作業を行うようにしています。また、額縁明きょやほ場内明きょの施工、あぜを一部分切ることによって排水口も確保するようにしています。

(2) 排水対策の工夫

小麦や大豆の収穫後には、毎年心土破碎を行っています。水田が隣接しているほ場については、額縁明きょを施工しています。特に、降雨の多い年には、ほ場の真ん中に明きょを掘るなど、その年の状況に応じて排水対策を徹底しています。

(3) 土づくりの工夫

- 1) 麦稈を全量すき込むことで有機物の供給に努めるとともに、小麦収穫後のほ場では、後作にチャガラシなどの緑肥を導入しています。
- 2) また、小麦畑には融雪剤としてケイカルを毎年120kg/10a以上施用し、倒伏防止の観点からケイ酸分の補給をしています。

(4) 栽培管理・作業の工夫

- 1) 安定生産及び省力化のために大豆間作小麦栽培に取り組んでいますが、は種作業にはダブルスピナーのブロードキャスターを使用しています。これにより、適期に適正な量を均一には種するよう心がけています。
- 2) 防除では、小麦の生育が旺盛で降雨量が少ない場合には赤さび病の予防を早期に行うなど、生育状況や天候、発生程度に応じて防除を実施しています。
- 3) 追肥量も生育に応じて決定しています。追肥を行う時期は生育ステージのみにとらわれず、小麦の葉色や莖数を見て判断し、降雨前の施肥を心がけています。また、生育量に応じて倒伏軽減剤を使用しています。

(5) 経営の工夫

- 1) 定期的に土壌分析を行い適正施肥に努めています。また、復元田では側条施肥のみ、大豆間作小麦栽培ほ場では融雪後の分追肥のみを施用し、コスト低減に取り組んでいます。
- 2) 既存の農地を自力施工によって区画拡大を行い、作業性の向上を目指しています。
- 3) 水稻、小麦、大豆の輪作に加え、小麦後作にキャベツを導入することで、所得の向上を図っています。
- 4) 畑作物以外の品目にも力を入れていて、水稻ではYes!Clean栽培に取り組んでおり、環境保全型農業の実践と付加価値による所得向上を図っています。

5 収量の向上、品質改善

- (1) 当地域では夏季の高温により細麦傾向になりやすいことから、止葉期の追肥を出穂直前から出穂の極始めまで遅らせることで、子実の充実を図っています。
- (2) 穂水分測定によって収穫適期を判定し、二段乾燥による乾燥機の利用効率向上を図って、確実な適期収穫を行っています。

6 その他

- (1) JA青年部部長及びJA青年部空知連合会副会長を歴任した経験を活かし、青果物の生産部会を同世代の生産者と立ち上げ、若手農業者を中心に取り組みを拡大しています。
- (2) 水稲とキャベツではYes!Clean栽培に取り組み、水稲と大豆ではエコファーマーを取得し、環境に配慮した農業を積極的に実践しています。
- (3) 峰延ブランド米生産組合副会長として、泥炭地における低タンパク米生産に取り組んでいます。小麦以外の他品目の収量・品質の向上に向け、日々研鑽されています。
- (4) 農業士としての責任感を持ち、地域のリーダー的存在となっています。また、若手農業者と積極的に関わりながらアドバイスをを行い、地域の農業の発展に貢献しています。

今後も、地域における生産性の向上や品質の安定化、後継者育成に関わっていくなかで、地域農業振興に大きく貢献していくと期待されています。



写真2 雪の下キャベツの収穫体験



写真3 栽培技術について説明する様子

（執筆者：空知農業改良普及センター 普及指導員 橋下 愛）
JAみねのぶ 渉外課 主任 坂本 充